

校内研修のねらい

出典

- ◆ 文部科学省「GIGAスクール構想の実現に関する補助事業の概要について」より
- ◆ 文部科学省「令和元年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（概要）」より
- ◆ 文部科学省「21世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために」より
- ◆ 文部科学省「ICTを活用した指導方法」

第1回校内研修

	本日の研修の流れ（例）
1	校内研修のねらい
2	児童生徒がICTを活用する授業とは
3	情報活用能力について
4	研究委員の実践
5	児童生徒がICTを活用する授業の事例について 集める編
6	児童生徒がICTを活用する授業の事例について まとめる編
7	児童生徒がICTを活用する授業の事例について 伝える編
8	授業づくりについて

新たな社会“Society5.0”

- IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット等をはじめとする**技術革新が一層進展**。
- サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、**経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会**。
- 幅広い産業構造が変革し、**人々の働き方やライフスタイル等が変化**。
- 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、5番目の社会（Society）。



学習指導要領改訂の背景・趣旨

新しい価値やサービスが創出され、人々に豊かさをもたらす新たな社会Society5.0の到来
→ くらしやはたらし方も変わる

来るべき未来の予測

「今後10年～20年程度で、**半数近くの仕事が自動化**される可能性が高い」

マイケル・A・オズボーン准教授： ※英・オックスフォード大学

「子供たちの多くは将来、今は**存在していない職業**に就く」

キャシーデビットソン教授： ※ニューヨーク市立大学大学院センター

“今、学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか”
“人工知能の急速な進化が、人間の職業を奪うのではないか”といった不安の声

予測できない変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を子どもたちに育む学校教育の実現を目指す。

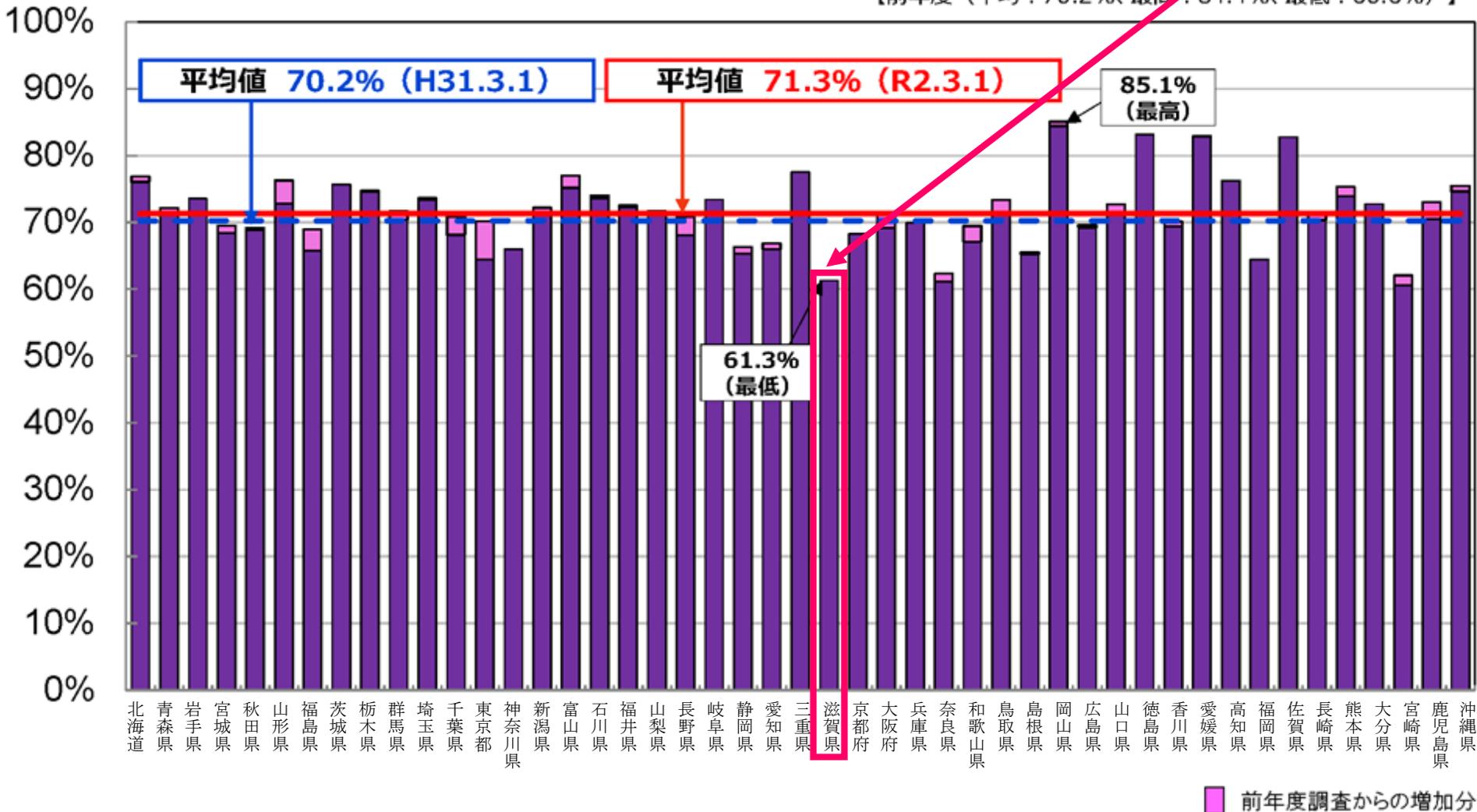
学習指導要領改訂の方向性

滋賀県

61.3%

③大項目C 児童生徒のICT活用を指導する能力

【前年度（平均：70.2%、最高：84.4%、最低：60.6%）】

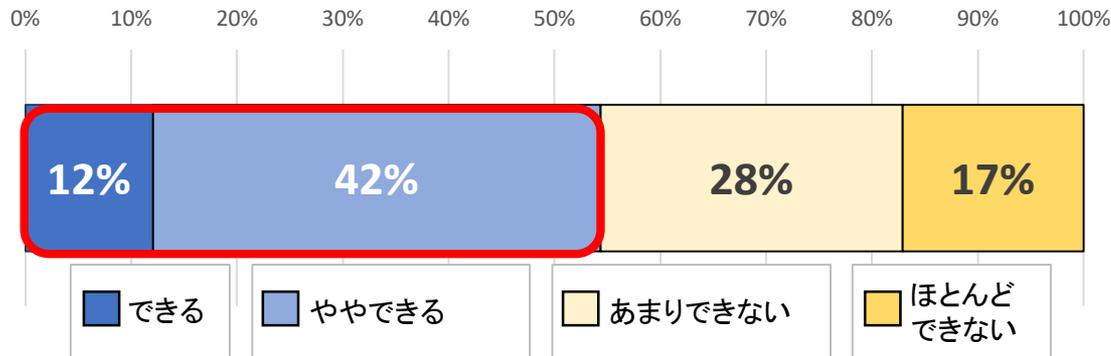


本校の指導者意識調査の結果 (例)

質問5
～8

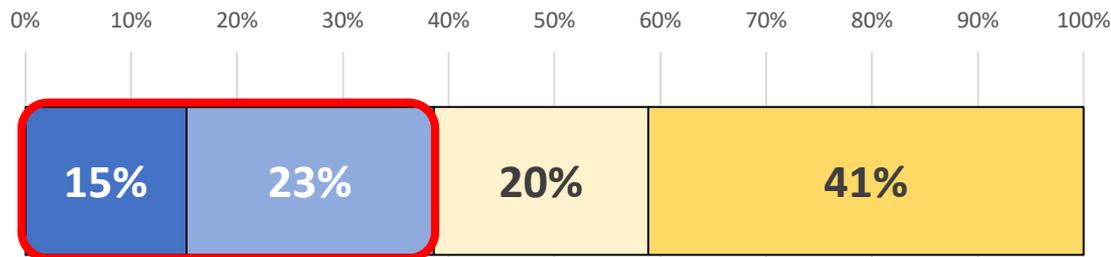
<教員のICT活用指導力
チェックリストより>

C項目「児童生徒のICT
活用を指導する能力」の
合計



質問15

今年度、児童生徒がI C Tを活用する授業を行っていますか。



質問16

今年度、児童生徒の情報活用能力を育成することを意識してI C Tを活用する授業を行っていますか。



情報活用能力



言語能力



情報活用
能力



問題発見・
解決能力



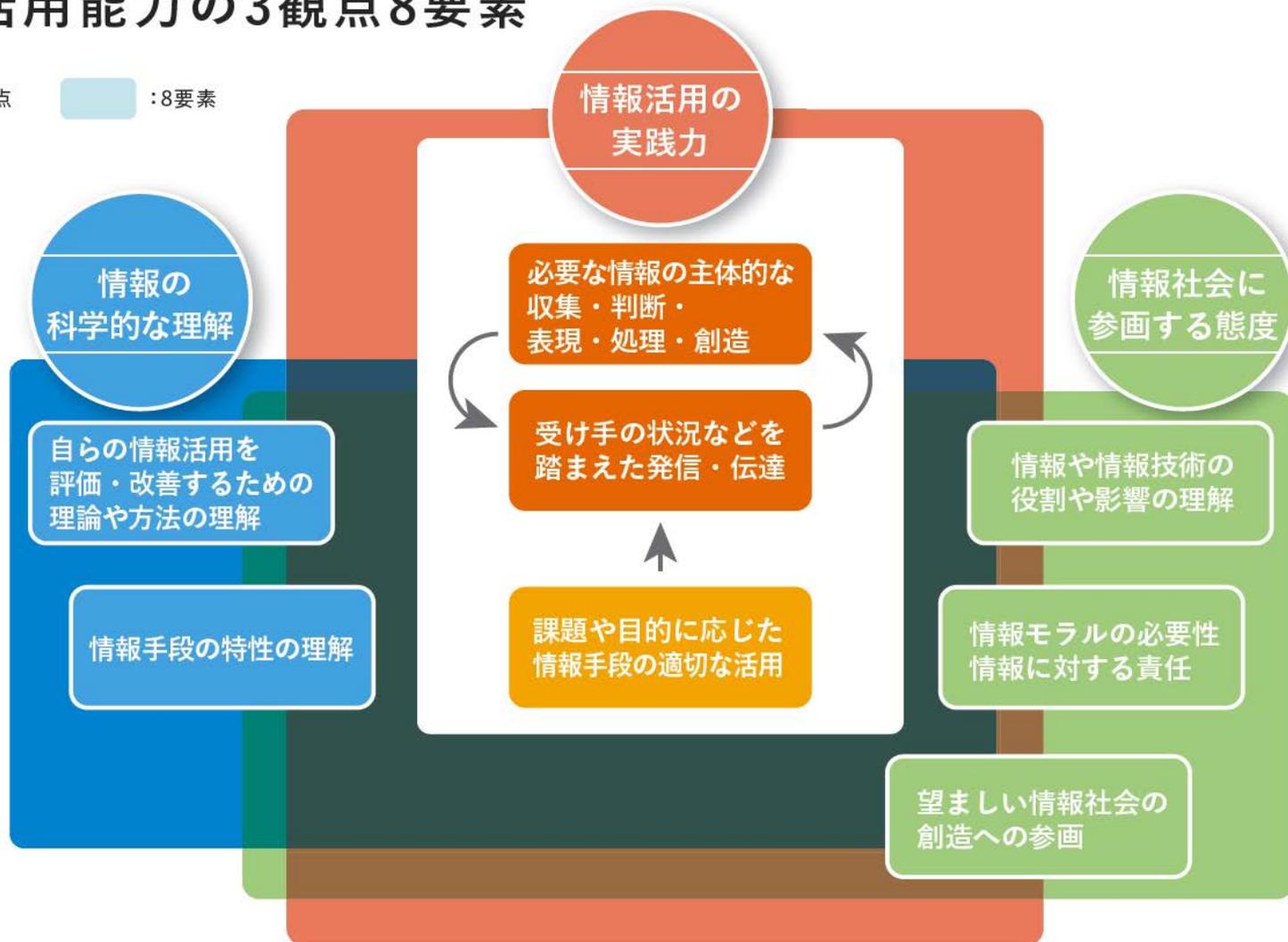
学習の基盤となる
資質・能力

情報活用能力

情報活用能力の3観点8要素

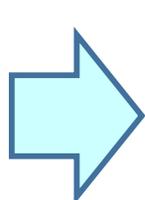
● : 3観点

■ : 8要素



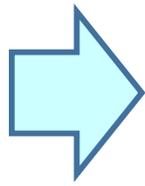
情報活用の実践力育成の三つの観点

情報を収集・選択する



集める

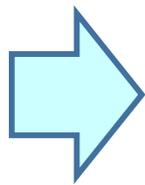
情報を整理・比較する



まとめる

情報活用の実践力育成の三つの観点

わかりやすく相手に伝える



伝える

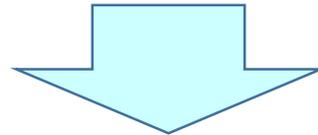
情報活用の
実践力

集める
まとめる
伝える

「ICT活用の特性・強みを生かす」

「単にICT機器を指導に取り入れれば、情報活用能力が育成されたり、教科等の指導が充実したりするわけではない」

「教育の情報化に関する手引」（令和元年12月）より抜粋



- ・ ICTを教科等の指導に取り入れるねらいを**明確**にする
- ・ ICT活用場面を**意図的・計画的**に位置付ける

情報活用
能力



児童生徒がICTを
活用する授業の充実

2回の校内研修のねらい

	第1回校内研修	授業実践	第2回校内研修
時期	8月下旬から9月上旬	9月中旬から10月上旬	10月下旬から11月上旬
ねらい	児童生徒がICTを活用する授業を行うことができる。	授業実践から成果と課題を見いだすことができる。	指導者が行った授業づくりについて交流を行い、自身の成果と課題を見だし、今後の実践につなげていくことができる。
内容	研修のねらいを踏まえた授業を構想する。	授業プランシートを活用し授業実践を行う。	研究授業を行い、研究協議では、授業実践したことを交流することにより共有し、成果と課題をまとめ、次の実践につなげる。